

丁西林「圧迫」の改編・翻訳・解説

夏 嵐・森賀 一恵・磯部 祐子

1：はじめに

小文は、中国語独幕劇「圧迫」の、改編と翻訳、およびその作品論であり、同時に中国語独幕劇の上演を取り入れた中国語演習授業の報告をも兼ねる。

今回取り上げた丁西林¹の「圧迫」は、1926年に『現代評論・第一周年紀念増刊』誌上に発表され、その後『西林独幕劇』（新月、1931）、『西林独幕劇集』（文生、1947）、『丁西林劇作集』（人文、1955）、『圧迫（独幕劇集）』（人文、1963）、『丁西林劇作全集（上下冊）』（戯劇、1985）などに収められている。

登場人物は、日がな一日外でマージャンにふける未亡人の家主、その家のお手伝いさん、部屋を見に来た独身の男性客と女性客、巡査の5人である。家主は、家を貸したいが妙齢の娘がいるので独身の男性には貸したくない。しかし家主の娘の方は、相手を見つけるため独身の男性に貸したい。そこで家主の留守に男性客から手付金を受け取ってしまったらしい。手付金を渡した男性客には部屋を貸さない理由が納得できない。独身者にはなぜ貸してくれないのか、何とかして借りようとする男性客と頑なな家主は衝突し、業を煮やした家主は巡査を呼びにく。そこへやって来たのは部屋を見に来た女性客で、男性客の苦境を知り、理不尽に扱われたその鬱憤を晴らしてあげようと、自分が男性の妻の振りをすることを提案し、話は解決へと向かう。

「圧迫」は、短いストーリーの中に、登場人物の性格、対立軸が明確に設定され、丁西林らしい完成度の高い仕上がりとなっている。

2：作品誕生の背景とその評価

この作品の誕生の経緯は、劇本の前に付された作者の序から知ることができる。

「劉叔和を偲んで

叔和へ

この短劇は君に捧げる。この劇の主人公のある種愛すべき性格が、君からヒントを得たものかと問われれば、そうだとはっきりとはいえないが、この劇のプロットは、君のおかげで生ま

1 丁西林については、夏 嵐・磯部 祐子・森賀 一恵「丁西林「一只馬蜂」の改編と翻訳—大学における中国語独幕劇上演のために—」（富山大学人文学部紀要50号 2009年2月）参照。

れたものだ。去年の冬一たぶん、君も覚えているだろう—君は私たちの所から出て自分で別に部屋を借りて住むつもりだった。ある晩、暖炉の前で火にあたりながら、私たちはそのことを話題にし、君をからかって、もし結婚しないなら、きっと部屋はみつからないよといった。なぜなら、北京で部屋を借りるには二つの条件を満たさねばならないからだ。一つは保証人、もう一つは家族だ。その時、私はこのテーマはとても面白いと思って、君に短劇を書いてあげようと言った。もう一年余り前のことだ。この一年の間、何度かこの戯曲を書こうとしたが、いつもうまくいかなかった。今、この戯曲をまがりなりにも脱稿したが、君はもう死んでしまった。以前に私が書きたいいくつかの試験的作品は、みな君に見てもらってから、発表した。これは特に君のために書いたものなのに、君から批評してもらえない。これは、非常につらいことだ。

この短劇は幻想にすぎない。「問題」もなければ、「教訓」もない。しかし、君の死によって、特別な意味を持つことになった。君がどのように死んだか、わかっているかい。君の病気は熱病だった。君は蠅にかみ殺された。蠅は人をかんだりしないが、君が入院しているとき、君の友（私）は見舞いに行くと、いつも君のベッドや体やミルクカップにたかるたくさんの蠅をたたき殺したものだ。君はそういった誰も看護するものがない環境にいたから、蠅にかみ殺された。しかし、その言い方は、やはりあまり理性的とはいえない。そこで、私は思った。君が実際に部屋を探したとき、もしこの劇の主人公のように、ああいった同情心に富む人に巡り合って、君と「協力して」、—「有産階級の圧迫」のみならず—社会の一切の圧迫と軽視に抵抗してくれたなら、君はきっと死ななかつただろう。そう私は確信する。

君はとてもユーモアのある人だったから、私が喜劇を書いて死んでしまった友を偲ぶのを決して咎めないだろう。私は生来悲観的な人間ではない。しかし、この戯曲を書き終え、君の事を思うと、言い知れない寂しさと悲しみを感じるのは紛れもない事実である。

西林

十四、十二、七」

ここでは、友人が部屋借りに苦勞したことに触発され、この戯曲を書いたと記されている。当時、北京で部屋を借りるには、保証人と妻という二つの条件を満たさなければならなかった。それがかなわぬまま、この友人は世を去った。

友人は丁西林の試験的作品を呼んで批評してくれる人物だった。もし友人に、共に「協力して」立ち向かってくれる人がいたら死ぬことはなかったのではないかとの思いを抱き、その思いを作品に込めた、と作者はいう。

しかし、我々はこの劇になんら息苦しい気分を感じ取ることはできず、激しい主張を読み取ることもできない。むしろ、そこには軽妙なおかしみのある明るい喜劇が展開されるだけである。ただ、笑いのあとで静かな主張のようなものを感じとることはでき、そこに丁西林劇の魅力を感じるのである。

陳伯塵はいう、「作者自身はこの劇でいかなる“問題”も“教訓”も提示してはいないが、リアリスティックに描かれたコミカルな衝突からは、不合理な社会に対する風刺と批判、封建的思想に対する攻撃とその顕在化を見ることができる。同時に抑圧に共に手を携え立ち向かおうとする青年への賛美が満ち溢れ、その結果、この劇には強い社会的意味が備わることになった。芸術的側面から見て、構成における巧みと緻密、ことばに見る機知とユーモア及び諧謔味、真に迫った、そして生き生きと描き出された喜劇の人物は、丁西林の早期の喜劇作品に共通する特色であるが、これら全ては『圧迫』において最も際立って表れ、最もよく発揮されている。それゆえ洪深によって「喜劇中の唯一の傑作」と称されたのである。」²と。このように、陳伯塵は、構成、ことば、人物の面にわたって高い評価を与えているが、そこに引用された、中国の新劇草創期を代表する劇作家であり研究者であった洪深(1894-1955)のいう「喜劇中の唯一の傑作」一語の意味は大きい。次節では、当時の演劇界全体を概観し、「圧迫」の文学史的意味をさらに明らかにしよう。

3：話劇史からみた「圧迫」

唱、念、做、打を基本表現方式とする伝統的な戯曲と異なり、対話を中心的な表現形式とする話劇(Drama)は、中国では最初は全く新しい外来の演劇形式だった。丁西林が活躍した1920年代は、現代話劇の創作が始まって間もない頃で、まだ未熟な段階にあった。多幕劇は1930年代の中頃になって完成に近づいたが、それ以前には、多くの作家によって独幕劇というスタイルが試されたのである。

紹介するに足る独幕劇も少なくない。胡適がお遊びで書いた「終身大事」(1919)は、当時最先端だった女性の自由結婚をテーマとしたものだったが、その白話の対話体が比較的完全な戯曲構造になっていたため、現代話劇の最初の作品だとみなす論者もいる。汪仲賢の「好兒子」(1921)は普通の善良な市民が環境に流されてやむを得ず墮落したさまを素朴に生き生きと描いており、洪深から、自らの属する社会に対する批判としては、「汪仲賢の「好兒子」はその時期では最も価値のある作品である」³と称賛されている。歐陽予倩の「澆婦」(1922)は、中国的ノラのイメージを作り上げたが、その妥協を許さぬ反骨精神で、旧習俗や旧思想を批判した。田漢の「獲虎之夜」(1924)は、村の一組の若い男女の悲劇的恋愛を描いていて、詩情豊かであり、一般の主に都市生活を背景とした作品と比べると独特なものである。熊佛西の「醉了」(又の名を「王三」1928)は、小人物が良心と現実の狭間で悩み苦しむ様子を描いていて、完成度が高く、「これは熊氏の傑作だというだけでなく、近來の演劇界まれに見る戯曲といっ

2 陳伯塵 主編『中国現代戯劇史稿(1899-1949)』(中国戯劇出版社 1989年9月)

3 洪深『中国新文学大系・戯劇集』「導言」(上海良友図書公司 1935年)

ても過言ではない」⁴とされる。

同じ時期の丁西林も主に独幕劇を創作し、1939年になってはじめて、最初の四幕劇「等太太回來的時候」を書いたが、丁西林が描く戯曲のテーマも、当時の大多数の作品と同様、若い男女の婚姻の自由獲得や女性の自立への奮闘、古い習俗や思想への批判などである。そういう意味では、彼の作品には決して特別なところがあるわけではないし、社会の関心の広さや批判精神の深さでは決して際立っているわけではなく、彼より広く深い作家は少なくないといってもよい。

しかし、喜劇形式で、そういった決して広くなく、深くなく見える内容を描いたことによって、彼の作品は独特の風格を持つに至るといってよいだろう。この時期の話劇だけでなく、話劇創作の全史においても、丁西林の喜劇はいずれも看過できない傑作ぞろいである。二十年代の独幕劇の数は多いが、喜劇は極めて少なく、先に述べた独幕戯曲はいずれも喜劇でなく、中には喜劇的な色彩さえ見出しがたい重苦しい悲劇もある。

喜劇を書くことは大変難度が高い創作活動である。何気ない笑いの話題の中に機智的な仕掛けや巧妙な配置が必要で、さらに重要なことには、笑いの背後に足場のしっかりした理性の支えがあらねばならず、それがあってはじめて、中は空っぽ、笑っておしまいということにならずに済むのである。丁西林作品はこれらを充足している。それ以前の文明劇の舞台でも、笑いを誘う場面や対話、そして人物設定はあったが、多くはまだ形だけのものであった。男女関係のもつれによる殺人、けん銃、娼妓、仇討などの刺激的なプロットが多用されたのと同じく、笑いのネタも観衆を引きつける重要な手段である。例えば、男が女装した時の誇張した表情や仕草、挿入された方言、人の生理的欠陥の模倣などはみな笑いを誘う常套手段である。しかし、このような単純な笑いは低いレベルにとどまり、内容がないものであることは言うまでもない。少し後の、陳大悲の作品などはうまく笑いのネタを用いて観客を引きつけており、中には非常に高い舞台効果を上げているものもあるが、陳大悲の作品はまだ文明劇の色彩が濃厚で、荒唐無稽なプロット、あいまいな人物の性格、雑な構造など、本当の意味での喜劇ではなく、笑いは単なる笑いにとどまり、ドタバタ劇に近いものだったといえる。

丁西林の喜劇の構造は完璧で、それほど多くない登場人物の性格がいずれも比較的是っきりしている。中でも、笑いは、芝居の筋と無関係で無理に付け加えたものではなく、劇中人物や劇中の事件から自然発生的に醸し出される「可笑しさ」であることは特筆すべきである。たとえば、「圧迫」では、男の客の融通の利かない杓子定規ぶり、家主の勘定高さ、女の客の猪突猛進、お手伝いさんの無原則な妥協、巡査の無責任な出鱈目などが、それぞれ滑稽なレベルにまで達していて、そういった滑稽な部分が次々連なり、誇張した荒唐無稽な対話やプロットを使わな

4 馬彦祥『現代戯劇講座』「現代中国戯劇」（現代書局 1932年）

くても、自然と笑いを誘う。実際、「圧迫」のどのセリフを取り出しても、いっかな可笑しさを感じることもないのだが、劇中で劇中人物がいかにももっともらしくしゃべると、非常に滑稽で可笑的と感じるのである。

しかし、見るものは単純に腹を抱えて大笑することもできない。それは、そういった人物に、かすかに自分自身の影を見出すからである。つまり、自分自身も劇中人物と同じ欠点を持っていることに気づく。しかし、人生の大事というものではないため、声を立てることはなく、そのことに思い当ってにんまりとするに止まる。そして、笑いの後も、その味わいは心に残り、私たち自身のもつ滑稽さをも教えてくれたりするるのである。

これこそが丁西林的喜劇の巧妙なところといえる。無理がなく、厳しくもなく、風刺すらなく、あるのはただ知的な優しさのみで、笑いは読者（観衆）の理性に対する彼の愉快的な観察ともいえよう。

丁西林の後は、陳白塵の戯曲まで、こういった愉快的な喜劇は見られなかった。陳白塵は三十年代から「徴婚」（1935）、「恭喜発財」（1936）などの喜劇作品を発表をはじめ、1940年には「未婚夫妻」を世に問うた。この作品の内容は、丁西林的「圧迫」からヒントを得て発展させたといつてよい。一組のカップルがいて、男の方はもし結婚しなければ部屋が借りられず、女の方は一旦結婚してしまえば職を失うという状況下で、部屋も借り職も失わないために、未婚の夫婦は知恵を絞り、応対に大童という話である。「圧迫」では登場人物の性格自体が滑稽で可笑しかったのに対し、「未婚夫妻」では人物の置かれた状況が滑稽で、救いようがなく、そのような状況に身を置いた人物が無駄な抵抗を試み、まさにそういった無駄骨や無力感が読者（観衆）の笑いのツボを刺激するのである。

独幕喜劇の「未婚夫妻」が五幕喜劇の「結婚進行曲」（1942）に発展すると、部屋借りや職位の保全をめぐる中心テーマはそのままだったが、人物の性格は一層深く描かれ、劇中の衝突（問題）は複雑化し、そして、風刺の要素が加わったため、いささか批判精神の鋭いものに変わった。そのほか、女性の自立や婚姻の自由などのサブストーリーも増え、ストーリーが厚みのあるものになっている。

陳白塵は三年後また、三幕劇「昇官図」（1945）を書いたが、この作品は中国現代喜劇の最も優れた代表作と讃えられている。風刺の利いた、誇張した、漫画的なタッチで、当時の社会の腐敗と墮落を描いたものである。到る所に笑いを誘うプロットや対話がちりばめられているが、明らかに「結婚進行曲」の含蓄ある風刺と異なり、もちろん丁西林的温和で抑制のきいた作風とは一層開きがあって、嘲笑の中に批判精神が満ちあふれている。

丁西林から陳白塵に至ると、喜劇の笑いは温和なものから鋭いものへ、差しさわりのない人類の共通の欠点に対するにんまりした笑いから、容認しがたい墮落に対する容赦のない嘲笑に変化した。喜劇の芸術性については、優劣をつけるのは難しいかもしれない。人によって見方

は異なる。しかし、丁西林が現代話劇の創作、とりわけ喜劇の創作において、その先鞭をつけたのみならず、ある種の模範を示し、後の者に新たな発展の可能性を示唆したことは認めざるを得ない。

以上、丁西林劇は、その醒めた戯劇観と実践によって中国話劇史に大きな足跡を残した。丁西林は社会に矛盾が存在することを知っていても、劇作に直接的に反映しようとはせず、あくまでも、劇には、純粋な知的面白さを求めた。丁西林の作品が今日においても色あせることのない理由はまずそこにこそある。その姿勢は、彼の記した戯劇観「闹剧是一种感性的感受，喜剧是一种理性的感受，感性的感受可以不假思索，理性的感受必需经过思考....闹剧只要有声有色，而喜剧必需有味，喜剧和闹剧都使人发笑，但闹剧的笑是哄堂，捧腹，喜剧的笑是会心的微笑」⁵に如実に表れている。ここでは、喜劇をドタバタ劇と明確に区別し「喜劇は理性の感受である」という信念が記され、「会心的微笑」すなわち「(思い当って) にんまりする」ことこそが喜劇の笑いであると述べられている。

4：先行訳文について

実は、この劇は、本学上演前に、昭和31(1956)年6月(6月5日—17日 俳優座試演会に「貸間探し—圧迫—」と題して俳優座によって試演された。そのとき用いた台本は、宮川晟の訳になり、雑誌『新劇28』⁶に掲載されている。その訳文には大きな誤訳はないものの、例えば、幕が開いてまもなく展開される以下の会話などに、明らかな文化理解の不足を指摘できる。

本文

男客：(不耐烦，站起来) 唉，你先弄一点东西来吃，好不好？

老妈：东西倒有在那里，不过这也得等太太回来。

宮川訳

男客：(こらえきれなくなって、立ち上がる。待っているより、先にこしらえてたべたらい
いじゃないですか？

老婆：もうとうにできているだがね、これも奥さまがお帰りになってからのことだよ。

小訳

男性客：(我慢できずに、立ち上がる。やれやれ、先にちょっと食べる物ものを作ってきて
食べさせてくださいませんか？

お手伝いさん：食べ物ならございます。ですが、それも奥さまのお帰りをお待ちしなければ
なりません。

5 丁西林『丁西林劇作全集』「孟麗君前言」(中国戯劇出版社 1985)。初出『劇本』(1961年7・8月号合刊)

6 昭和31年7月1日発行 白水社

これは、家主を待つ男性客が待ちくたびれて我慢できずにいるところに、手伝いのおばさんがやってきてお茶を注ぐ、その直後の場面である。お手伝いさんが空腹を訴えたわけでもないのに、男性客に「待っているより、先にこしらえてたべたらいいじゃないですか？」と言わせるのは、状況からみて唐突であろう。確かに「你先弄一点东西来吃」は、「あなたが作って自分で食べる」とも「私に作ってきて食べさせて」とも解釈できる。いわば両義性のある一文である。しかし、当時のお手伝いさんが置かれた状況から見て、男性客がお手伝いさんに「やれやれ、先にちょっと食べる物ものを作ってきて食べさせてくださいませんか？」と依頼するほうが自然であろう。しかし、それを聞いたお手伝いさんは、主人の同意を得ずに食べ物を勝手に客に出すことはできない。そこで、「食べ物ならございます。ですが、それも奥さまのお帰りをお待ちしなければなりません。」という返答をするのである。

このような文化理解の不足に由来すると思われる誤訳は、「老妈」の訳にも見られる。宮川訳は「老婆」となっているが、「老妈」に老女や老婆の意味はなく、一般には既婚者や子をもつ年齢層のお手伝いさんを指し、30歳代の女性であっても、「老妈」と呼んでよいのである。

こうした誤訳の回避には、文脈を正しく読み取ること、文化を正しく理解することが必要である。今回の演習でも、ネイティブの的確なアドバイスを受けながら、より完成度の高い翻訳を目指すことを心がけた。そのような解釈と翻訳の上に、2009年7月28日、富山大学人文学部中国言語文化演習履修生による中国劇「压迫（邦題：独身で何が悪い ～部屋借り大作戦～）」は、緊張と期待の中に幕を開け、二胡・月琴の響きの中に達成感漂うフィナーレを迎えた。

5：丁西林作、夏嵐改編「压迫」

以下に、富山大学人文学部2009年前期中国言語文化演習履修生による2009年7月28日、富山大学において初演された「压迫」改編版およびその翻訳を載せる。改編のために使用した本は『丁西林劇作全集』（中国戯劇出版社、1958年7月）所載のテキストである。

下線部は改編箇所であるが、改編は、上演の都合上（観劇者に対する説明や役者交代など）、加える必要があった箇所に限られる。また、現在の正書法に則り、原文の文字を改めた箇所があるが、それについては一々注記することはしない。

『压迫』

本来、租房子就是租房子，和结婚没结婚完全是两码事儿。可心里有把小算盘的房东太太硬要把两码事儿强拉一块儿。来了个倔脾气的客人，不认这个理儿，偏要单身租房。于是两

『独身で何が悪い～部屋借り大作戦～』

<ナレーター>本来、部屋を貸すということ
は部屋を貸すということ以外の何ものでもあ
りません。所帯を持っているかどうかなどは
全く別のことでしょう。しかし、損得をあれ

人硬碰硬，好戏就此开了场。

房客与房东的智斗，让我们忍俊不禁。房子到底花落谁家，当中过程饶是有趣。看来世上无论什么事儿，都逃不出一个“理”字儿。

<人物>

男客人

女客人

房东太太

老 妈

巡 警

<布景>

一间中国旧式的房子。后面一扇门通院子，左右壁各一门通耳房。房的中间偏右方，一张方桌，四围几张小椅。桌上铺了白布，中间放着一架煤油灯及茶具。偏左方，一张茶几，两张椅子，靠壁放着。一张椅背上搭了一件雨衣，旁边放着一个手提的皮包。后面的左边靠墙放着一张类似洗脸架带有镜子的小桌，上面放着一个时钟及花瓶。屋内尚有其他的陈设，壁上还有一些字画，但都很简单而俭朴。

これ考える貸主は、それらを一つに結びつけようとしています。そこへやって来た意固地な借主にはその理由が納得できず、どうあっても単身で部屋を借りようとしています。そこで、二人の頑固者同士がぶつかり、そこから面白い芝居が始まります。

借主と貸主の知恵比べは笑いを禁じえません。部屋は一体誰の手に落ちるのでしょうか、その過程は真にユーモアに富んでおります。思いますに、世の中は何事においても、「理」という一文字から離れては立ち行かないようでございます。

<登場人物>

男性客（部屋を見に来た男）

女性客（部屋を見に来た女）

家主

お手伝いさん

巡查

<舞台セット>

中国の古いスタイルの部屋。背面には中庭に通じる両開きの扉があり、左右の壁はそれぞれ小部屋に通じる扉がある。部屋の中央より右寄りに四角いテーブル、その周りには数脚の椅子がある。テーブルの上には白いクロスが敷かれ、真ん中に石油ランプと茶器が置かれている。左寄りにはティーテーブルと二脚の椅子が壁に沿って置いてある。椅子の一脚の背にはレインコートが掛けてあり、そばに革製の手提げ鞆が置いてある。背面の左側には洗面台と思しき鏡のついた小テーブルが壁に沿って置かれ、その上に置き時計と花瓶が置かれている。室内には、他にも家具調度

(开幕时，一个著粗呢洋服，长筒皮靴的男人坐在茶几旁边的一张椅上抽烟斗，一个老妈子立在门外，将手伸到屋檐的外边去试验有无雨点。

老妈：(走进屋来) 雨倒不下了，怎么还不回来？(从桌上拿了茶壶，走到茶几边代客人倒茶)

男客：(不耐烦，站起) 唉，你先弄一点东西来吃，好不好？

老妈：东西倒有在那里，不过这也得等太太回来。

男客：吃东西也得等太太回来？

老妈：(叹了一口气) 是的，吃东西得等太太回来，房子的事情，也得等太太回来。

男客：好吧，等太太回来吧。横竖是那么一回事，太太回来也是那样，太太不回来也是那样。(复坐下)

老妈：(摇头) 看那样子，太太不象肯答应把这房子租给你。

品がそなえてあり、壁にもいくつかの書画が掛かっているが、どれも凝ったものではなく質素なものである。

〔幕があがると、ツイードの洋服を着てブーツを履いた男性が、ティーテーブル脇の椅子に座って、パイプをふかしている。お手伝いさんが扉の外に立ち、軒の外まで手を伸ばして、雨が降っているかどうか確かめている。

お手伝いさん：(室内に入ってくる) 雨はやんでるのに、どうしてまだお帰りにならないのかしら？(テーブルからティーポットをとり、ティーテーブルのところに行って客に茶を注ぐ)

男性客：(我慢できずに、立ち上がる) やれやれ、先にちょっと食べるものを作ってきて食べさせてくださいませんか？

お手伝いさん：食べ物ならございます。ですが、それも奥様のお帰りをお待ちしなければいけません。

男性客：物を食べるのも奥さまを待たなきゃいけないんですか？

お手伝いさん：(ため息をつく) そうでございます。お食事のことは奥様のお帰りをお待ちしなければいけませんし、お部屋のことも奥様のお帰りをお待ちしなければいけません。

男性客：わかりました。奥さまのお帰りを待ちましょう。どのみちそういうことだ。奥さまが帰ってきたってそうだし、帰ってこなくてたってそうなんだ。(また座る)

お手伝いさん：(首を横に振る) どうも、奥様はこの部屋をあなたにお貸しになるつも

男客：不把这房子租给我？谁叫她收我的定钱？

老妈：是的，那只怪小姐不好。其实——唉——太太的脾气也太古怪了。象你先生这样的人，有什么要紧？深更半夜，屋里有一个男人，还可以有个照应。

男客：这房子以前有人租过没有？

老妈：这房子已经空了有一年多了，也没有租出去。

男客：这房子并不坏，为什么没有人要？

老妈：没有人要？谁看了都说这房子好，都愿意租。这房子又干净，又显亮，前面还有那样的一个花园。

男客：这样说为什么一年多没有租出去呢？

老妈：你先生也不是外人，告诉你也没有什么要紧，你知道，我们的太太爱的就是打牌，一天到晚在外边。家里只有我和小姐两个人。有人来看房，都是小姐去招呼。有家眷的人，一提到太太，小孩，小姐就把他回了。没有家眷的人，小姐才答应，等到太太回来，一打听，说是没有家眷，太太就把他回了。这样不要说一年，就是十年，我看这房子也租不出去。

りはなさそうです。

男性客：この部屋を私に貸さないですって？

私から手付金を受け取ったのに？

お手伝いさん：はい、それはお嬢様がいけないでございます。実を申しますと——あの——奥様も変わっておられます。あなた様のようなお方なら何の問題もありませんのに。真夜中に、家に男の方がいらっしゃれば、頼りにもなりますし。

男性客：この部屋は以前人に貸していたことがあるのですか？

お手伝いさん：もう一年あまり空いたままで、貸し出してもおりません。

男性客：この部屋は決して悪くないのに、どうして誰も借りようとしませんか？

お手伝いさん：誰も借りようとしなくて？どなたがご覧になっても、この部屋はいいとおっしゃって、皆さん借りようとなさいます。この部屋は清潔で、それに明るく、前にはあのような庭がありますから。

男性客：だとすれば、どうして一年あまり、貸していないのですか？

お手伝いさん：お客様は、部外者ではございませんから、お話してもかまいません。実は、うちの奥様は麻雀がとてもお好きで、朝から晩までずっと出ておられます。家にいるのは、私とお嬢様の二人だけです。どなたかが部屋を見に来られますと、いつもお嬢様がお相手なさいます。所持持ちの方が、奥様やお子様のことを一言漏らしでもしようものなら、お嬢様はすぐさまその方をお断りになります。独身の方でないとお嬢様は承知なさいませんが、奥様がお帰り

- 男客：怎么，象这样的事，以前已经有过么？
- 老妈：也不知有过多少次。每回租房，小姐都要和太太吵一次，不过平常小姐不敢做主，这一次她做主收了你先生的定钱，所以才生出这样的事来。
- 男客：她如果早做主，这房子老早就租了出去。
- 老妈：是的，不过平常租房的人，听说房子不能租给他们，他们也就没有话说，不象你先生这样的……
- 男客：古怪，是不是？是的，你们太太的脾气太古怪了，我的脾气也太古怪了，这一回两个古怪碰在一块儿，所以这事就不好办了。不过我也觉得这房子不坏，尤其是前面的那个小花园。
- 老妈：看你先生的样子，一定也是爱清静的。这里一天到晚听不到一点嘈杂的声音，离你先生办事的地方又近，所以……我曾在那里替你先生想……
- 男客：何だって、そういったことは以前にもあったのですか？
- お手伝いさん：何度あったかしれません。部屋を貸す話が出るたびに、お嬢様は奥様と必ず喧嘩をなさいますが、普段はお嬢様が勝手におきめになることはございません。今回はお嬢様が勝手にあなた様の手付金をお受取りになったので、こんなことが起ってしまったのでございます。
- 男客：お嬢様がもしもっと早くに勝手にやっていたら、この部屋はとっくに貸し出されていきましたね。
- お手伝いさん：そのとおりでございます。ですが、普通は、お客様は貸せないといわれても何もおっしゃいません。あなた様のようには……
- 男客：変り者じゃないと言うんでしょ？そうですね、お宅の奥様も大変な変り者だが、私も相当な変り者です。今回は二人の変り者がぶつかったのだから、この話はうまくいきませんよ。しかし、私もこの部屋は悪くないと思うし、特に家の前の庭が気に入りました。
- お手伝いさん：お客様のご様子を拝見いたしますと、きっと閑静なところが好みでしょう。ここは、一日中少しも騒がしい音は聞こえませんし、お勤めの場所からも近こうございますし、ですから……私はあなた

男客：你替我想什么？

老妈：……就说你先生是有家眷的，家眷要过几天才来，这样一说，太太一定可以答应把这房子租给你。

男客：好了，如果过几天没有家眷来，怎样？

老妈：住了些时，太太看了你先生什么都好，她也就不管了。

男客：不行不行，一个人没有结婚，并没有犯罪，为什么连房子都租不得？

老妈：喔，我不过觉得你先生这样的爱这房子，如果租不成功，心里一定不舒服，所以那么瞎想罢了，我原是不懂事的。——啊，这大概是太太回来了。（走到门口，高声）是太太么？（外面答应：老妈，你在吗？

老妈：是的，在这儿。（走出）

〔客人也站了起来。少停，房东太太由后门走进，老妈跟在她的后面。〕

房东：对不住，劳你等了。

男客：我对你不住，打搅了你。我叫你们的老妈子不要去惊动你，她没有听我的话。

様のために考えてみましたのですが、……

男性客：何を考えてくれたんですか。

お手伝いさん：……あなたが所帯持ちで、家族は数日したら来るとおっしゃりさえすれば、奥様はきっとこの部屋をあなた様に貸すことを承知なさるでしょう。

男性客：それで、もし数日たっても家族が来なければ、どうなります？

お手伝いさん：しばらくお住まいになって、奥様があなた様は何もかも素晴らしい方だということがおわかりになれば、もうお気にはなさらないでしょう。

男性客：だめです。結婚しないことは決して犯罪ではないのに、どうして部屋を借りることすらできないんです？

お手伝いさん：いえ、私はただあなた様がこんなにこの部屋を気に入っておられますから、借りられなかったらがっかりなさるだろうと思って、そんないい加減な事を考えたまでです。私はもともと何もわかっておりませんから。——あら、たぶん奥様がお帰りになったんだわ。（入口まで歩いて行って、高い声で）奥様ですか？（外から答えて：おまえ、いるの？）

お手伝いさん：はいこちらにおります。（外に出る）

〔客もしばらく立ち上がって立ち止まる。家主である奥様が背面の扉から歩いてきて、お手伝いさんが彼女の後ろについている〕

家主：すみません、お待たせいたしました。

男性客：私の方こそすみません。お邪魔いたしました。お手伝いさんにあなたをお煩わ

房东：那没有什么。（从一个皮夹里拿出一张票子）啊，这是你先生留下的定钱，请你收起来。

男客：啊，对不住，我今天是到这边来住宿的，不是来讨定钱的。

老妈：太太，他已来了老半天了，还没吃饭呢。

房东：怎么？昨天我不是对你说明白了么，说这房子不能租给你？

男客：啊，是的，你说得很明白。

房东：那么今天你还叫人把行李送到这儿来是什么意思？

男客：（高兴得很）因为叫我不要来是你说的，不是我说的，我并没有答应你说不来。我答应了没有？

房东：（渐渐地感到不快）你这话我真不大明白，你的意思，好象是说这房子的租不租要由你答应，是不是？

男客：喔，不是，这房子的租不租，自然是要由你答应。不过，既把房子租了给我，这房子的退不退，就得由我答应。你知道，现在这房子不是租不租的问题，是退不退的问题。

せしないようにと申したのですが、私の言うことを聞いてくれませんか。

家主：なんてことございませんわ。（皮の札入れの中から一枚の紙幣を取り出す）あの、これはあなたが置いていかれた手付金です。どうぞお収め下さい。

男性客：ああ、すみません、私は今日ここに住むために来たのであって、手付金を取りに来たものではありません。

お手伝いさん：奥さま、この方はいらしてずいぶん経ちましたが、お食事もまだです。

家主：何ですって？ 昨日、私ははっきりと申し上げませんでしたかしたら、この部屋をお貸しできないって。

男性客：ああ、そうです、はっきりおっしゃいました。

家主：では、今日荷物を運びこませたりなさったのはどういうことでしょうか？

男性客：（とても愉快そうに）私に来るなどおっしゃったのはあなたであって、私ではありませんからね。私はあなたが来るなどおっしゃったのに対して承諾しておりません。承諾いたしましたか？

家主：（だんだん不快になってきて）あなたのおっしゃることはまったくよくわかりませんわ。まるでこの部屋を貸すかどうかはあなたの承諾次第だと考えておられるようですね？

男性客：いや、違います、この部屋を貸すかどうかはもちろんあなた次第です。けれども、この部屋を私にお貸しになった以上はこの部屋から退去するかどうかは私次第です。あのですね、もう、この部屋を、貸す

房东：（渐渐生起气来）我这房子是几时租给你的？

老妈：太太，可小姐已经收下了定钱……

男客：你既收了我的定钱，这房子就算租给了我。

房东：真是碰到鬼，我几时收你的定钱？那是我的女儿，她不懂事。

男客：不懂事？她又不是一个小孩子。

房东：喔，现在这些废话都不必讲，我这房子并不是不租，我是要租一个有家眷的人，如果你先生有家眷来同住，我这房子租给你，我没有话说。

男客：你这话说得毫无道理，你租房的时候，说明了要家眷没有？我骗了你没有？

房东：（改用和平的方法）租房的时候没有说，可是我昨天已经对你先生说过，我们家里没有一个男人……

男客：（停止她）唉，唉，我问你，你租房的时候，你家里有男人没有？为什么现在才想到？

貸さないという問題なのではなく、退去するしないの問題なのです。

家主：（だんだんと腹を立てて）私がこの部屋をいつお貸ししました？

お手伝いさん：奥さま，でもお嬢さまがもう手付金を受け取っておしまいになりましたが……

男性客：私の手付金をお受取りになったんですから、この部屋は私にお貸しになったということになりますよ。

家主：ほんとうにわけがわからないわ。私がいつ手付金を受け取りました？受け取ったのは娘で、あの子は何もわかっておりませんから。

男性客：わかってないですって？子供じゃあるまいし。

家主：はい，無駄話もう結構です。この部屋はお貸ししないのではなくて，ご家族のいらっしゃる方にお貸しするのです。もし同居されるご家族がいらっしゃるのなら，この部屋をあなたにお貸しして，何も文句は申しません。

男性客：あなたの話は全然筋が通っていませんよ。あなたは，部屋を貸してくださる時，家族が要るとおっしゃいましたか？私はあなたを騙しましたか？

家主：（平和的なアプローチに変えて）部屋をお貸しする時には申しませんでした，昨日あなたに申し上げましたでしょう，うちには一人も男がおりませんもので……

男性客：（彼女を止めて）ちょっと待った。お尋ねしますが，あなたが部屋を貸した時には，家に男はいたのですか？どうして今

房东：你这人一点道理不讲，我没有这许多工夫来和你争论。

老妈：（想做和事佬）喔，太太，今天时候也不早，天又下雨，现在要这位先生另外找房子，也不大方便，可不可以让这位先生暂时在这儿住一宵，明天再想旁的法子。

男客：（固执）不行！这话不是这样讲，如果我不租这房子，我即刻就走，既是收了我的定钱，这房子就非租给我不可！

房东：那么我告诉你，你今晚非走不可！

男客：（冷笑了一声）哼！（坐了下来）

房东：（站到他的面前）你走不走？

男客：不走！

老妈：太太，他是真喜欢这房子。

房东：王妈，去把巡警叫来。

老妈：喔，太太！

房东：你去叫巡警来。

老妈：真的叫巡警来吗？

男客：巡警来了又怎样？巡警也得讲理呀。

頃になって思いついたのですか？

家主：あなたって人は全くわけのわからないことをおっしゃるわね。私にはあなたと
言い争いをするほど暇じゃございません。

お手伝いさん：（仲裁しようとして）あの、
奥様、今日はまだ遅くなりましたし、雨も
降っています。今からこの方が改めて部屋
を探すことは、なかなか難しうございます。
この方に一晩ここにお泊まりいただいて、
明日また別の方法を考えたらいかがでしょう。

男性客：（頑固に）だめです！そういうこと
じゃないんです。もし私がこの部屋を借り
ないのなら、すぐに出て行きます。しかし、
私から手付金をお受け取りになった以上、
この部屋はどうしても貸していただかな
ければなりません！

家主：それじゃあ申し上げますが、あなた
には今晚どうしても出て行っていただかな
ければなりません！

男性客：（冷笑して）フンッ！（座る）

家主：（彼の前に立って）出て行くの行か
ないの？

男性客：行くものか！

お手伝いさん：奥様、お客様は本当にこの部
屋がお気に入りです……

家主：王媽（ワンマー）、警察を呼んで来
なさい。

お手伝いさん：まあ、奥様！

奥様：警察を呼びに行きなさい。

お手伝いさん：本当に呼んでくるのでござい
ますか？

男性客：警察が来たからってどうだっていう

老妈：太太，我想……

房东：我叫你去叫巡警去，你听见了没有？
——你去不去？

老妈：好吧。真没办法。（由后门走出）

房东：要他即刻就来！（由后门走出，用力将
门一关）

男客：（没有了办法。袋里摸出烟包和烟斗，
包里的烟又完了，从皮包里取出一个烟罐，
开了一罐新烟，先把烟包装满了，然后装了
烟斗。正想抽烟的时候，忽然来了敲门的声音。
厉声的）进来！（仍然背了门立着）

女客：（推开门，轻轻走进。身上著了一件雨
衣，一手提了一只小皮包，一手拿了一把雨
伞。一进门就开了口，一开了口就有不能停
止之势）啊！对不起，请你原谅。

（男客人急转过身来，这时他才看见进来的是
这样的一个人。

女客：这是很无礼的，我知道，但是我没有办
法，你们的大门没有关，我一连敲了好几下，
都没有人答应，所以只好一直走进来。

男客：（气还未平，但没有忘记把衔在嘴里的

んです？ 警察も筋は通さなきゃならん
だろう。

お手伝いさん：奥様，私…

奥様：警察を呼びに行けと言ったのよ。聞こ
えてるの？——行くの，行かないの？

お手伝いさん：わかりました。ほんとうにど
うしようもないんだから。（背面の扉から
出て行く）

奥様：すぐに来てもらいなさい！（背面の扉
から出て行き，カー杯扉を閉める。）

男性客：（しかたがないので，ポケットから
シガレットケースとパイプを取り出すが，
ケースのタバコは切れていて 鞆からタバ
コ缶を取り出し，新しいタバコ缶を開いて，
先ずシガレットケースにタバコをいっぱい
詰め，それからパイプにタバコを詰めた。
ちょうど吸おうとした時に，突然ノックの
音が聞こえる。厳しい声で）どうぞ！（依
然として扉に背を向けている。）

女の客：（扉を押し開き，そっと入って来る。
レインコートをはおり，一方の手には小さ
な革の鞆，もう一方の手には傘を持つてい
る。入るとすぐに喋り始め，喋り出すと止
まらない勢いである。）あ！申し訳ござい
ません。お許してください。

〔男の客は慌てて振り返り，この時初めて，
入って来たのがどういう人か分かった。〕

女の客：大変失礼だとは存じましたが，仕方
が無かったです。入り口のドアが開いて
いて，続けて何回かノックしたのですが全
く応答がなかったので，そのまま入って来
るしかありませんでした。

男の客：（腹立ちはおさまっていなかったが，

烟斗拿出来放在桌上)你有什么事?

女客: 我? 我是到这边大成公司做事来的。今天刚从北京来, 下午三点的车子, 直到六点钟才到, 九十里路, 走了两个半钟头, 你看! 现在我要找一个住宿的地方, 在火车站上, 我打听了几个地址, 一连走了三四家, 都没有找到一间合用的房子。有人告诉我, 说这边还有几间空房……

男客: (遇到了对头) 啊, 你是来租房的!

女客: 是的。不知道这边的房子租出去了没有?

男客: (狠心地回答) 你的运气不好, 这房子刚刚租出去。

女客: 啊, 你说我运气不好, 我的运气可真不好。碰到这样的天气, 这乡下的路又不好走, 你看, 我一身的衣服都打湿了。两只脚走得发酸。(叹了一口气) 唉。我可以借你们的凳子坐了歇一会儿么?

男客: 对不起, 请坐。(气全没有了)

女客: (放下皮包, 雨伞) 谢谢你。(坐在茶几里边的一张椅上, 向四边观察房里的一切)

口に啜えていたパイプを取ることを忘れずに) 何の御用ですか?

女の客: 私ですか? 私はこちらの大成カンパニーで働くために来たのです。今日北京から来たばかりで、午後三時の汽車に乗って、六時にやっと着いたのですけれど、九十里を二時間半もかけて来たんですよ! その次は、住む所を探さなければいけなくて、駅で何ヶ所かの所番地を聞いて、続けて三、四件訪ねたのですが、ちょうど良い部屋が見つからなかったんです。こちらにまだ何間か空き部屋があると教えてくださった人が居て……。

男の客: (競争相手だとわかって) ああ、部屋を借りに来られたんですね!

女の客: そうなんです。こちらの部屋は借りられてしまったかしら?

男性客: (いじわるく答える) あなたは運が悪かったですね。この部屋はちょうど貸し出されたばかりなんです。

女性客: ああ、運が悪いとおっしゃいますが、本当に運が悪いんです。こんな天候にあってしまうし、この田舎道も歩きにくいし、ほら見てください。全身ずぶぬれになってしまいました。両足は棒になってしまうし。(はあーとため息をついて) ああ、腰かけをお借りしてちょっと休んでもいいでしょうか。

男性客: すみません。どうぞお座りください。(腹立ちはまったくおさまっている)

女性客: (鞆と雨伞を置く) ありがとうございます。(ティーテーブル脇の椅子に座って、部屋中を観察する)

男客：（引起了趣味，坐在方桌旁的一张小椅上）刚才你说你是到大成公司来做事的，不知道在那边担任的什么事？——啊，也许我不应该问。

女客：不应该问？那有什么？这又不是不可以告诉人的事。前两个星期，他们在报上登了一个广告，要聘请一位书记。那个广告，什么报上都有，我想你一定看到的。（男客点了一点头。

女客：上星期五，他们又在报上登了一个启事，说“敝公司拟聘书记一席，现已聘定，所有亲友寄来荐书，恕不一一作复，特此声明。”这个启事，你看见了没有？（男客又点了点头。

女客：那位聘定的书记就是我。你没有想到吧？——你没有想到是一个女人吧？

男客：这倒没有想到。

女客：（得意得很）不过现在怎么办呢？你替我想想，后天就要到公司里去接事，现在连住的地方还没有找到！从六点半钟一直到现在，就没有停脚。不瞒你说，我连饭还没吃呢。（起身整理了一回衣，走到镜子的前面照脸）

男性客：（興味を引かれ四角いテーブルのそばの小さな椅子に座る）あなたはいまだ大成カンパニーで働くために来たとおっしゃいましたが、そこで何の仕事を担当されるのですか？——ああ、もしかしたらお尋ねすべきではないのかもしれませんが。

女性客：尋ねてはいけないですって？かまいませんとも。人に言えないようなことでもありませんし。二週間前、会社は新聞に文書係ひとりを募集する広告を出しました。その広告は、どの新聞にもありましたから、ご覧になったと思います。

〔男性客うなづく

女性客：先週の金曜日、会社はまた新聞に通知を載せました。“弊社は文書係を募集しておりましたが、すでに採用者を決定いたしました。推薦状をお送り下さいました方々には、おひとりおひとりに御断り申し上げます。ここにご通知申し上げます。”と。この通知を、あなたをご覧になりましたか？

〔男性客またうなづく

女性客：その採用された文書係が私なのです。思いもよらなかったでしょう？——女だったなんて？

男性客：それは思いもよりませんでした。

女性客：（得意げに）でも今は一体どうしたらよいのか。私の身にもなってみてください。あさっては会社へ行って仕事をしなくてはいけないのに、住む場所さえまだ見つかっていません！六時半から今までずっと歩きっぱなしでした。実を言うと、私は食事はまだなのです。（立ち上がって衣服を

男客：（好象很同情的样子）饭还没有吃？那怎么行？这一层说不定我或者可以帮助你。（起身倒了一杯茶）

女客：谢谢你，我不过是告诉你。我不是来骗饭吃的。

男客：喔，对不起！——好，请先喝一杯茶吧。

女客：谢谢。（复坐原处）

男客：（袋里摸出纸烟盒）你不抽烟吧？

女客：我不抽烟，不过我并不反对旁人抽烟。（喝了一口茶）

男客：谢谢你。（放回烟盒，收了烟斗，背转身，燃火抽烟）

女客：（摸自己的脚）喔，天呀！你看我的这双脚，还象是人的脚么？……

男客：（急转过身来）怎么样？

女客：不仅是水，连泥都走进去了！

男客：（殷勤起来）那真糟。要不要换袜子？如果要换袜子，我可以走到外边去。

（整え、鏡の前へ行って顔を映す）

男性客：（同情した様に）お食事がまだなのですか？それはよくないですね。お食事面ならもしかしたらあなたをお助けすることができるかもしれません。（立ち上がって茶を注ぐ）

女性客：どうもありがとう。言ってみただけです。何も食事を無心に来たわけではないのです。

男性客：ああ、すみません！——さあ、まずお茶を一杯どうぞ。

女性客：ありがとうございます。（また元の所に座る）

男性客：（ポケットからシガレットケースを取り出し）お吸いにならないでしょ？

女性客：吸いません。でも他の人がたばこをお吸いになっても別に気に致しません。（茶を飲む）

男性客：ありがとうございます。（シガレットケースをポケットに入れ、パイプを手に取り、背を向けて、火をつけてたばこを吸う）

女性客：（自分の足を触って）ああ、なんといいことでしょう！私の足を見てください、もう足じゃないみたい。……

男性客：（急いで振り返り）どうなさったんですか？

女性客：水だけじゃなく、泥にまで突っ込んだんですよ！

男性客：（礼儀正しくなって）そりゃひどいですね。靴下をお取り換えになりますか？もし取り換えられるなら、私は外に出ますよ。

女客：谢谢你，我不要换袜子，就是换袜子，也用不着把你赶到外边去。

男客：不要紧，如果袜子没有带，我还可以借你一双。

女客：谢谢你，你的好意我很感激，不过换它有什么用处？反正是要到水里走去的。

男客：要到水里走去？——干么要到水里走去？

女客：不到水里走有什么办法？这样漆黑的天，一到街上，你还分得出哪里是水哪里是路来么？

〔男客如有所思。〕

女客：（又喝了一口茶，叹了一口气，起身告辞）啊，打搅了你，对不住得很。（拿了皮包，雨伞，预备走出）

男客：（阻止她）不用忙，再歇一会儿。——刚才你说，你是要租房的，是不是？

女客：（面向了他）怎么，我说了半天，你还没有听懂么？

男客：听是听懂了。不过……唉，你看这三间房子怎么样？

女客：怎么，你不是说已经租出去了么？（放

女性客：ありがとうございます。取り換える必要はありません。たとえ取り換えるにしたって、外に行っていたかなくて結構です。

男性客：かまいません。もし靴下をお持ちでないのなら、私があなたに一足お貸ししますよ。

女性客：どうもありがとう。あなたのご好意はありがたいです。でも取り換えたところでどうなるんでしょう？どうせ水の中に出て行くのですから。

男性客：水の中に出て行くですって？——どうして？

女性客：水の中を行かずにどう行けばいいんですか？こんな真っ暗な中，通りに出れば，どこが水でどこが道か区別がつきませんよ？

〔男性客は何か考えている様子〕

女性客：（また一口茶を飲み，ため息をつき，立ち上がり暇を告げる）では，おじゃましました，本当に申し訳ございませんでした。（鞆と雨傘をとり，出て行こうとする）

男性客：（彼女を引き留める）急ぐことはありません，もう少し休んでいてください。——今しがたあなたは，部屋を借りたいとおっしゃいましたよね？

女性客：（彼に向かって）何ですって！ずっと申し上げていたのに，まだおわかりにならないのですか？

男性客：わかったことはわかったのですが，……あっそうだ。この三間の部屋をどう思われますか？

女性客：えっ？部屋はもう貸し出されたとお

- 下皮包)
- 男客：租是租出去了，不过也许可以让给你。
- 女客：（高兴起来）可以让给我？真的么？（放下雨伞）
- 男客：自然是真的。（又替她倒好了一杯茶）
- 女客：（坐下，接了茶）谢谢。不过为什么可以让给我？是不是这房子如果我愿租你就可以不租给那个人？
- 〔男客摇头。〕
- 女客：不然，你刚才说的是句谎话，这房子就没有租出去？
- 男客：不，我说的是实话。这房子是已经租出去了。现在也不是不租给那个人。我说可以让给你，是说已经租好了房子的那个人，自己愿意让你。
- 女客：那我可不明白。为什么那个人愿意把房子让给我？他连见都没有见过我，为什么要把房子让给我？
- 男客：那你不用管。
- 女客：这房子闹鬼不闹鬼？
- 男客：怎么，难道你怕鬼么？
- 女客：喔，我是不怕鬼的，我说也许那个人怕鬼。
- っしゃったでしょ？（鞆を置く）
- 男性客：貸し出されたことは貸し出されたのですが、もしかしたらお譲りできるかもしれません。
- 女性客：（喜んで）私に譲ってくださるのですか？本当ですか？（傘を置く）
- 男性客：もちろん本当ですよ。（彼女に、またお茶をもう一杯注ぐ）
- 女性客：（座って、お茶を受け取る）ありがとうございます。でも、どうして譲っていただけるのでしょうか？もし、私がこの部屋を借りたいと望めば、あなたはその方に貸さなくてもよいのですか？
- 〔男性客首を横に振る〕
- 女性客：それなら、さっきおっしゃたことはうそで、この部屋はまだ貸し出されていないのですか？
- 男性客：いいえ。私の言ったことは本当です。この部屋はもう貸し出されています。今もその人に貸さないというわけではありません。お譲りできると申し上げたのは、この部屋をすでに借りているその人が、自ら望んであなたにお譲りするということです。
- 女性客：どうもよく分かりません。どうしてその人は私に部屋を譲りたいのかしら？お目にかかったこともないのに、どうして私にお譲り下さるのですか？
- 男性客：それはあなたが気にする必要はありません。
- 女性客：この部屋は幽霊が出るのですか？
- 男性客：え？幽霊が怖いんですか？
- 女性客：いえ、私は怖くありません。もしかしたらその方が幽霊を怖がってらっしゃる

男客：喔，那个人也是不怕鬼的。——不管有鬼没有鬼，让我们来看看房子，好不好？（从桌上拿了灯引她看房。）这是一间睡房。（开了右壁的门，让她走进）芦苇的顶篷，洋灰地，洋式床，现成的铺盖。窗子外面是一个小小的花园。一清早就可以听到鸟的声音。白天撩开窗帘，满屋里都是太阳。

〔女客人走出。他又把她引到右边的耳房。〕

男客：这边也是一个睡房。铺盖家具也都是现成。房间的大小，和那边一样。就是光线差一点。一个人住的时候，这里可以做睡房，那边可以做书房。

〔女客人走出。〕

男客：中间可以吃饭会客。（放下灯）这屋子又干净，又显亮，一天到晚，听不到一点嘈杂的声音。这里离你办事的地方又近。我看这房子是于你再合式没有了。对了，还有这个院子很不错，闲时你可以种点儿花。

女客：这三间房子租多少钱？（坐下）

男客：喔，便宜得很。这样的三间房子，只租五块钱一月。

のではないかということですね。

男性客：いいえ。その人も幽霊を怖がっていません。——幽霊がいようがいまいが、部屋を見てみませんか？（机の上に置いた石油ランプを持って、彼女を案内する）ここは寝室です。（右の扉を開けて、彼女を中に招じ入れ）よしず張りの天井，セメントの床，洋式ベッド，備え付けの布団セット。窓の外には小さな花園があります。早朝には鳥の声が聞こえ，日中にカーテンを開けると部屋に日の光が満ちます。

〔女性客が出てくる。男性客は今度は彼女を右手の小部屋に案内する〕

男性客：こちらも寝室です。寝具も家具も全部備え付けてあります，部屋の広さはあちらと同じです。ただ日当たりが少し劣ります。一人で住む場合は，こちらを寝室にして，あちらを書斎にすることができます。

〔女性客が出てくる〕

男性客：中の間は食堂，応接室に使えます。（ランプを置いて）この部屋はきれいで明るいし，一日中少しも騒がしい音が聞こえません。ここはあなたが仕事をする所からも近いです。私から見て，あなたにとってこれ以上ふさわしい部屋はありません。そうそう，それからこの庭もすばらしいですよ。お閑なときは花を植えてもいいでしょう。

女性客：この三間の部屋代はおいくらかしら？（座る）

男性客：ああ，とても安いですよ。このような三間の部屋が，ひと月たったの五元なんです。

女客：房子倒不错，房价也不贵。（想了一想）
这房子真的可以让给我吗？

男客：自然是真的，为什么要骗你？

女客：不过今晚就来住，总不行吧？

男客：行，行。（好象忽然想起一件事来）不
过——你结了婚没有？

女客：（跳了起来，挺了胸脯，竖起眉毛）什
么？！

男客：（还要补一句）你结了婚没有？

女客：（怒了）你这话问得太无道理！

男客：太无道理？

女客：简直是一种侮辱！

男客：（高兴起来）“侮辱”，对了，一点都不错，
我也是这样说。但是现在有房出租的人，似
乎最重要的是先要知道你结婚没有。

女客：我结婚没有，干你什么事？

男客：是的，一点都不错，我结婚没有，干她
们什么事？可是她们一定要问，你说奇怪
不奇怪？

女客：我完全不懂你的意思。

男客：谁说你懂？你自然不懂我的意思。不过

女性客：部屋はなかなかいいし、部屋代も高
くない。（ちょっと考えて）この部屋を本
当に譲っていただけるのですか？

男性客：もちろん本当です。どうしてあなた
を騙さなくちゃいけないんですか？

女性客：けれど今晚入居するのは、だめでし
ょう？

男性客：かまいませんとも（突然何かを思い
出したように）でも——あなたは結婚して
おられますか？

女性客：（跳び上がって、昂然と、眉をつり
上げて）何ですって！

男性客：（念を押すように）あなたは結婚し
ておられますか？

女性客：（怒って）そんなことを聞くなんて、
失礼よ！

男性客：失礼ですって？

女性客：まったく侮辱だわ！

男性客：（喜んで）“侮辱”，そうです、全く
その通りです。私もそう言ったんです。で
も部屋を貸す人は、まず結婚しているかど
うかを知ることが一番大事なことのような
のです。

女性客：私が結婚しているかどうか、あなた
に何の関係があるのですか？

男性客：そう。全くその通りです。私が結婚
しているかどうか、彼女たちに何の関係が
あるというのでしょうか？でも彼女たちは決
まって聞きます。おかしいと思いません
か？

女性客：私にはあなたのおっしゃることが全
く分かりません。

男性客：誰もあなたにわかるとは言っていま

- 你不要性急，让我告诉你，你就会懂。——
刚才你说，你是到这边大成公司来做事的，
是不是？……
- 女客：你这人的记忆力真坏，怎么刚说过了的话，立刻就忘了。
- 男客：不要生气。我不过是告诉你，我也是到这边大成公司来做事的。
- 女客：你也是到大成来做事的？
- 男客：是的。你没有想到吧？
- 女客：你在大成做什么事？
- 男客：我在这边当工程师。
- 女客：这样说，你并不是这里的房东？
- 男客：谁说我是这里的房东？我说了我是这里的房东没有？你看我的样子，象一个房东么？
- 女客：（抢着说）啊，我知道了！你是这里的房客！这三间房子是你租的，现在你觉得不合适，想把它退了。
- 男客：想把它退了！谁说我想把它退了？
- 女客：刚才你不是说这房子可以让给我的么？
- せんよ。あなたにはもちろん私の言っている意味はわかりません。でも、慌てないで私に話させて下されば、すぐにおわかりになりますよ。先程、あなたはこちらの大成カンパニーで働くために来たとおっしゃいましたよね？……
- 女性客：あなたって人は本当に記憶力が悪いですね。どうしていま話したばかりのことを忘れてしまうんですか。
- 男性客：怒らないでください。私も大成カンパニーで働くために来た、と言いたいですよ。
- 女性客：あなたも大成カンパニーで働くために来たんですか？
- 男性客：そうです。思いもよらなかったでしょう？
- 女性客：あなたは大成カンパニーで何をなさるんですか？
- 男性客：私はそこでエンジニアの仕事をします。
- 女性客：だとすれば、あなたはここの大家さんではありませんね？
- 男性客：誰が、私がここの大家だと言いました？私はここの大家だと言いましたか？私のこの恰好を見て大家に見えますか？
- 女性客：（口を挟んで）ああ、わかりました！あなたはこの部屋の借り手ですね！あなたは、この三間の部屋を借りたけれど、気に入らなくなって、解約したいんですね？
- 男性客：解約したいだって？誰が解約したいなんて言いました？
- 女性客：今さっき、あなたはこの部屋を私に譲ってもいいとおっしゃいませんでした

男客：是的，我是说可以让，没有说要退。

女客：那我更加不明白了，你既不想退，为什么要让呢？

男客：你真的不明白么？

女客：真的不明白。（坐下）

男客：因为——我看了你……喔，不是，因为房东不肯租给我。

女客：为什么房东不肯租给你？

男客：啊，就是这婚姻的问题。现在我们讲到题目上来了。一星期以前，我到这里来看房子，碰到了房东小姐。一见了我，她就盘问我，问我有没有老太太，有没有小孩子，有没有兄弟姐妹，直等到我明明白白地告诉她我是没有结过婚，她才满了意。连房价也没有多讲，她就答应了把房子租给我。

女客：懂么？她一定知道了你是一个工程师，她想嫁给你！

男客：真的么？这我倒没有想到。——昨天下午，我到这里来的时候，她们老太太告诉我，说如果我没有家眷来同住，她这房子不能租给我。她明明知道我没有家眷，她把这话来要挟我，你说可恶不可恶？

か？

男性客：そうです。私は譲ってもいいと言いましたが、解約したいとは言ってません。

女性客：だったら、私は余計にわけがわからなくなりました。あなたが解約したくないなら、どうして譲ってくださるのですか？

男性客：あなたは本当にわかりませんか？

女性客：本当にわかりません。（座る）

男性客：ですから、それは——あなたと会って、……ああ、そうじゃなくって、この大家さんが私に部屋を貸そうとしないからです。

女性客：どうして大家さんはあなたに貸そうとしないのですか？

男性客：あ、つまり、例の結婚の件ですよ。私たちはやっと本題に辿り着きました。一週間前、私がおここに部屋を見にくると、この大家の娘さんがいました。彼女は私を見るときに、母親はいるかだとか、子供はいるかだとか、兄弟や姉妹はいるかだとか、問い詰めはじめ、私が結婚していないとはっきりというやっとな彼女は気が済んだようでした。部屋代の話もそこそこに、私にこの部屋を貸すことを承諾してくれました。

女性客：わかる？彼女はきっとあなたがエンジニアだと知って、結婚したいと思ったのよ。

男性客：本当ですか？それは思いもよらなかったな。——昨日の午後、ここに来ると、こちらの奥さんに言われたのです。もし私に同居する家族がいないなら、この部屋は貸せないと。彼女は私に家族がないことが

- よくわかっていながら、そんなことをいつて私を脅すんですよ、憎らしいと思いませんか？
- 女客：为什么没有家眷来同住，这房子就不能租给你？
- 男客：我不知道啊。她说她们家里没有男人。
- 女客：笑话。
- 男客：这简直是一种侮辱，是不是？
- 女客：是的。——后来怎么样？
- 男客：后来我把她教训了一顿。
- 女客：她明白了这个道理没有？
- 男客：明白了这个道理？一个人一过了四十岁，他脑子里就已经装满了旧的道理，再也没有地方装新的道理，我告诉你。
- 女客：现在怎么样？
- 男客：现在？现在我不走！
- 女客：她呢？
- 男客：她？她去叫巡警。
- 女客：叫巡警？叫巡警来干什么？
- 男客：叫巡警来撵我！
- 女客：真的么？
- 男客：为什么要骗你？你如果不相信，等一会儿巡警就要来，你自己看好了。
- 女客：这倒是怪有趣的事。不过巡警如果真的
- 女性客：どうして同居する家族がいないところの部屋をあなたに貸せないのですか？
- 男性客：知りません。彼女は家に男がいないからと言ってます。
- 女性客：馬鹿げてる。
- 男性客：これは全く侮辱でしょ。
- 女性客：そうですね。——それからどうなりました？
- 男性客：それから、彼女に説教してやりました。
- 女性客：彼女はその理屈を理解できましたか？
- 男性客：その理屈を理解できたかですって。人は四十を過ぎると、脳が古い理屈でいっぱいになってしまって、もう新しい理屈を詰め込む余地がなくなるんですよ。
- 女性客：これからどうします。
- 男性客：これから？私は出ていきません。
- 女性客：彼女は？
- 男性客：彼女？巡査を呼びに行きました。
- 女性客：巡査を呼ぶ？巡査を呼んでどうするんです？
- 男性客：巡査を呼んで私を追い出させるんですよ！
- 女性客：本当ですか？
- 男性客：どうしてあなたを騙す必要がありますか？もしお信じにならないなら、もう少ししたら巡査が来ますから、ご自分でご覧になったらいいでしょう。
- 女性客：それにしても、すごく面白いことで

要撵你，你怎么样？

男客：你没有来以前，我不知道怎样。现在我有了主意。

女客：你预备怎样？

男客：我把巡警痛打一顿，让他把我带到巡警局里去，叫房东把房子租给你。这样一来，我们两个人就都有了住宿的地方。

女客：那不行。（若有所思）

男客：那为什么不行？

女客：你还是没有出那口气。——唉，我倒有个主意。

男客：你有什么主意？

女客：（少顿）让我来做你的太太，好不好？

男客：什么？你说什么？你来做我的太太？

女客：喔，你不用吓得那么样，我不是向你求婚。

男客：喔，你误会了我的意思，——我……我……因为我实在没有想到这个方法。

女客：这是最妙的一个方法。她说你没有家眷同住，这房子就不能租给你。现在你说你有了家眷，看她还有什么话说？她多半没有话

すわね。でも、巡査が本当にあなたを追い出そうとしたら、どうなさいます？

男性客：あなたが来られる前には、どうしたらいいかわかりませんでした。今は考えがあります。

女性客：どうなさるおつもり？

男性客：巡査を思いっきりなぐって、私は警察に連れて行かれ、大家にはあなたに部屋を貸させます。そうすれば、我々二人とも泊まる場所ができます。

女性客：それはだめです。（何か考えている様子）

男性客：なぜだめなんです？

女性客：あなたはまだ鬱憤を晴らしてらっしゃいません。——ああ、私に考えがありません。

男性客：どんな考えがあるんです？

女性客：（少し間をおく）私があなたの奥さんをさせていただくなんてのは、どうかしら？

男性客：なんですって？何をおっしゃるんです？あなたが私の奥さんに？

女性客：ああ、そんなにびっくりなさらなくていいでしょう。私は何もあなたにプロポーズしているわけではないのですから。

男性客：ああ、あなたは私のことばを誤解していますよ。——私は……私は……実際、そんな方法はまったく思いもよらなかったものですから。

女性客：これは一番気の利いた方法です。大家さんはあなたに同居する家族がいなければこの部屋は貸せないとおっしゃいまし

说。

男客：她一定没有话说。不过——你愿意么？

女客：我为什么不愿意？这于我有什么损害？——又不是真的做你的太太。

男客：喔，谢谢你！谢谢你帮了我的大忙！

女客：你不要把我意思弄错。我不是说做了你的太太，我就有什么损害，那完全是另外一个问题。

男客：是的，那完全是另外一个问题。不过你帮我把租房的问题解决了，我总应该向你道谢。

女客：嗤！道谢，无产阶级的人，受了有产阶级的压迫，应当联合起来抵抗他们。有什么好谢的？（侧耳静听）

男客：不错，不错。联合起来抵抗他们！

女客：我听见有人说话。

男客：那一定是巡警！（急促的）唉，不过我已经说过我是没有家眷的，现在怎么对她们讲？

女客：就说我们吵了嘴，你是逃出来的，不愿意给人知道……。

男客：（听到巡警已经走到门外，他急忙地点

た。今あなたに家族があるとおっしゃったら、それ以上何の文句が言えるかしら。たぶん何も文句はないでしょう。

男性客：彼女はきつと何の文句もありません。でも——あなたはいいのですか？

女性客：私がなぜよくないんですか？私にとってどんな損害があるというんです？——本当の奥さんになるわけじゃあるまいし。

男性客：ああ、ありがとうございます。大いに助かります！

女性客：勘違いなさらしないで。私はあなたの奥さんになると言ったのではありませんし、私が何か損害を被ったとしても、それは全く別の問題です。

男性客：そうですね、それは全く別の問題です。でもおかげで部屋を借りることができそうだし、やっぱりお礼を言わなければなりません。

女性客：ぶっ！お礼だなんて。無産階級の人には有産階級の压迫を受けたら、団結して抵抗すべきなのですよ。お礼を言っていたかくことはありません。（聞き耳を立てる）

男性客：おっしゃる通りです。団結して抵抗すべきだ！

女性客：人の話し声が聞こえます。

男性客：きつと巡査です。（あわてて）ああ、だけど私はもう家族がないと言ってしまった、今度は彼女たちにどう言ったらいいでしょう？

女性客：こうおっしゃれば？ 私たちは口げんかをして、あなたは飛び出したけれど、人に知られたくなくて、……。

男性客：（巡査がもう扉の外まで来ている音

了一点头，叫她不要再讲话）嘘！

（男客人坐在方桌边，装作生气的样子。女客人坐在茶几旁边。后门由外推开，走进一个巡警，手里提了一个风灯，后面跟了老妈子和房东太太。她们看见房里来了一个女人，非常的惊讶。房里来的这个女人，见她们来了，起了一回身，向她们行了一个很谦和的礼。巡警将风灯放在桌上，与那位生气的先生行了一礼。

巡警：您贵姓？

男客：（不客气地）我姓吴。

巡警：（把头点了一点）喔。——府上是？

男客：府上？我没有府上。

女客：（起始做起受了委屈的太太来）啊，你是拿定主意不要家了，是不是？

巡警：（注意到插嘴的人，向男客人）这位……贵姓是？

男客：（答不出，看了女客人一眼。女客也正在代他为难。他只好起始做起依旧赌气的丈夫来）我不知道。你问她自己好了。

巡警：（真的问她自己）您贵姓？

女客：（很高兴地）我？我……也姓吴。

巡警：喔，你也姓吴。

がきこえ、急いでうなづき、彼女を黙らせる）しーっ！

〔男性客は四角いテーブル脇にすわって、怒っているふりをする。女性客はティーテーブルの脇に座る。背面の扉が外から押し開かれ、巡査が一人入ってくる。手にカンテラを提げ持ち、後ろにお手伝いさんと大家さんが続く。彼女たちは部屋に女の人が来ているのを見て、とても驚く。部屋にいたその女性は、彼女たちが入ってきたのを見ると、立ち上がって、彼女たちに穏やかで控えめなお辞儀をする。巡査はカンテラをテーブルに置いて、怒っている男に一礼する。

巡 査：お名前は？

男性客：（失礼な態度で）呉だ。

巡 査：（うなづいて）ああ。——お宅は？

男性客：お宅？お宅はない。

女性客：（不当な仕打ちを受けた妻のふりをはじめ）あら、家庭を捨てるとお決めたのね？

巡 査：（口を挟んだ人に気づき、男性客に向かつて）この方の……お名前は？

男性客：（答えられず、女性客を一目見る。女性客も彼が困るのを気にしている。彼は元通り意地を張っている夫のふりをするしかなく）知らん。彼女自身に訊けばいいだろう。

巡 査：（本当に彼女自身に向かつて）お名前は？

女性客：（とても機嫌よく）私？……私も呉と申します。

巡 査：ああ、あなたも呉さんですね。

女客：是的。

巡警：（再也想不出別的話）府上是？

女客：我？我住在北京西四牌樓太平胡同關帝廟對面，門牌三百七十五號，電話西局四六九二。——啊，你把它寫下來吧，等一會兒你一定要忘記。

巡警：（真的摸出一本小簿子來）北京……（寫字）

女客：西四牌樓太平胡同，（讓巡警寫）關帝廟對面。

巡警：門牌多少？

女客：三百七十五號。電話西局——四——六——九——二。

巡警：（寫完了）謝謝您。（藏好了簿子，又轉向男客）您是來這邊租房的，是不是？

男客：不是！我是來這邊住宿的。這房子我老早就租好了。

巡警：（難住了。沒有了辦法，又轉到女客）您是來這邊？……

女客：我？我是來這邊找人的。

房東：（不能再耐了）你到這邊找什麼人？誰認識你？王媽，她是誰？

女客：（很客氣地向她點了一點頭）我到這邊來找我的男人。

女性客：そうです。

巡 査：（それ以上何を聞いてよいか分からず）お宅は？

女性客：私ですか？私は北京西四牌樓太平胡同の關帝廟の向かいに住んでいて、375番地、電話は西局の4692です。——あ、書いておいてください、しばらくするときつと忘れてしまうでしょうから。

巡 査：（本当にメモ帳を取り出して）北京……（字を書く）

女性客：西四牌樓太平胡同。（巡査に書かせる）關帝廟の向かい。

巡 査：番地は？

女性客：375番地。電話は西局の——4——6——9——2。

巡 査：（書き終える）ありがとうございます。（メモ帳をしまい、又男性客の方を向く）あなたはここに部屋を借りにいらしたんですよね？

男性客：違います！私はここに住むために来たのです。この部屋は私がとっくに借りています。

巡 査：（困り果てる。仕方がないので、又女性客の方を向く）あなたがここに來られたのは？……

女性客：私？私はここに人を訪ねてまいりました。

家 主：（もう我慢できず）あなたはここに誰を訪ねて來たの？誰があなたの知り合いだというの？王媽（ワンマー）、この人何者？

女性客：（丁寧に彼女の方を向いてうなずき）私はここに主人を訪ねて來たのです。

房东：找你的男人？谁是你的男人？

女客：我想你应该知道吧？——你既把房子都租了给他。

房东：怎么！这位先生是你的男人么？你没认错人吧？

女客：我不知道。你问他好了，看他承认不承认？

老妈：（也不能再耐了）太太，你看怎么样！我老早就对您说过，这位先生一定是有太太的，您不信。

房东：这到底是怎么一回事？

巡警：（糊涂了）怎么？刚才你们不是说这位先生没有家眷，怎么现在他又有了家眷？

老妈：不要糊涂吧，刚才这位太太还没来，我们怎么会知道？如果这位太太早来这里，还可以省了我在雨地里走一趟呢。

女客：对你不住。这实在不能怪我，五点钟的车子，六点半钟才到这里。

老妈：请您不要多心。我不过是说他太不懂事。

巡警：这话可得要说明白了。太太要我这边来，是说这位先生租了这三间房子，要一个人在这边住。这屋里住的都是堂客，他先生

家 主：御主人を訪ねて？どなたがあなたのご主人なの？人違いじゃございません？

女性客：ご存じのはずだと思いますが？——もう部屋までお貸しになったんですし。

家 主：えっ！この方があなたのご主人なの？

女性客：さあ、どうかしら。彼にお聞きになればよろしいわ、認めるかどうか？

お手伝いさん：（やはりもう我慢できず）奥様、ほら御覧なさいまし！とくに奥様に申し上げておりましたでしょう。このお方にはきっと奥様がいらっしゃいますと。お信じになりませんでした。

家 主：いったいどういうことなの？

巡 査：（わけがわからなくなり）何ですって？あなたたちはさっき、この方は所持持ちではないと仰ったのに、どうして今は所持持ちになったのですか？

お手伝いさん：馬鹿なこと言わないで、さっきはこちらの奥様がまだいらしていなかったのだから、私たちにわかったはずがないでしょ？もしこちらの奥様が早くここにいらしてれば、私が雨の中を出て行かなくてもすんだのに。

女性客：すみません。それはほんとうに私のせいではなくて、五時に着くはずの汽車が六時半になって着いたものですから。

お手伝いさん：お気になさらないで下さい。私はただ彼が、本当に分ならず屋だと申しただけです。

巡 査：話をはつきりさせなければなりません。奥様が私をここに来させたのは、この方が三間の部屋を借りて一人でここに住み

一个人在这边住，很不方便，是那么个意思。现在这位先生的太太既是来了，这事就好办。如果太太是和先生在这边同住，那就没有我的事，如果太太不在这边住，这件事还得……

老妈：不要瞎说吧。太太自然是在这边住。——一看还不知道——先生和太太不过是为了一点小事，闹了一点意见，你不来劝解劝解，还来说那样的话。太太不在这边住，到哪里住去？——好了，现在没有你的事了，你赶紧回去打你的牌去吧。（把风灯送到他手里）走！走！

巡警：这样说，那就没有我的事了。好了，再见，再见。

房东：哼，不送！

女客：再见。你放心好了，哪一天我不在这里住的时候，我通知你就是了。

巡警：对不起，打搅，打搅。

（巡警走出。老妈兴高采烈地拿了茶壶走出。房东太太承认了失败，看了她的客人一眼，也只好板了面孔走出。）

男客：（关上门，想起了一个老早就应该问而还没有问的问题，忽然转过头来）啊，你姓什么？

たいとおっしゃっているからです。この家に住んでいる人はみな女性なので、彼一人がここに住むのはかなり都合が悪い、とそういうことですね。今この方の奥様がいらした以上、事は簡単です。もし奥様がご主人とここに同居されるのなら、私が出る幕ではありませんし、もし奥様がここに住まわれないなら、これはやはり……

お手伝いさん：ばかな事言わないで。奥様はもちろんここに住まわれますよ。——見ればわかるでしょう——ご主人と奥様はただちょっとした事で少しもめただけです。あなたは取りなそうともしない上に、まだそんな事を言うのですか。奥様がここに住まわれないで、どこに住まれるというのですか？——もういいわ、もうあなたの出る幕ではありません、さっさと帰って麻雀でもやったら。（カンテラを彼の手に渡す）行って！行って！

巡査：それなら、もう私に関係ありませんね。わかりました、では失礼。

家主：ふん、お見送りいたしませんわ！

女性客：ではまた（ごきげんよう）。ご安心ください。私がここを出ていくことになったらお知らせしますから。

巡査：すみません、お邪魔しました。

（巡査は出て行く。お手伝いのおばさんは大喜びでティーポットを持って出て行く。家主の奥様は負けを認めて、彼女の客をちらっと見て、仏頂面で出て行くほかない。）

男性客：（ドアを閉め、とっくに訊いておくべきだったことをまだ訊いていないことに気づき、さっと振り向き）ところで、あな

たのお名前は？

女客：我……啊……我……

女性客：私は……ああ……私は……

…幕下

—— 閉幕

補：評論 喬羽「オリーブ—『圧迫』を読んで」翻訳

以下に、喬羽（1927.11.16-）の評論「橄欖—讀《圧迫》札記」を参考までに翻訳し附載する。この評論は、『劇本』1957年9月号が初出であり、のち孔慶昇編『丁西林研究資料』（中国戯劇出版社 1986）に収められている。なお、『圧迫』については、喬羽の他、梁夢廻（1910.5-1977.3.5）にも評論があり、同資料集に中国語で収められている。しかし、梁夢廻の評論は、もともと『俳優座』1956年第17期に日本語で記されたものであるためここでは掲載しない。

オリーブ

—『圧迫』を読んで

喬羽

「オリーブを齧る」という出来合いの比喩で、『圧迫』を読んだ時の感覚を言い表すのは、最もぴったりした表現だとはいえない。なぜなら、読んだ時の気分は、オリーブを齧るようにリラックスしたものではなかったからだ。作者が『圧迫』という二文字をタイトルにしていることから、この戯曲を書いたときの作者の気分もリラックスしていなかったことがわかる。しかし、作者がその独特の筆遣いで描いたこの三十年前の社会生活は、非常に味わい深い。ざっと目を通すと、作者のウィットとユーモアのようなものがほの見えるが、戯曲の魅力に引き付けられ、何度も読むうち、笑ってすまずことができなくなる。この作品には、作者の憤りもあれば、作者のいう「寂しさと悲しさ」もあり、作者のいう「有産者の圧迫」が、無産階級が身をもって受ける階級的圧迫とはなお相当距離があるとはいえ、それでもやはり作者自身の視点で、当時の社会生活の不合理を直接描くことなく明らかにしている。そのような時代に生活していれば、ごく当たり前のことにも当たり前でないやり方を採ってはじめてうまくいく。劇の主人公の困り切った顔つきに、読者は笑いを禁じえないが、笑うだけにとどまらず、それによって笑い声の中から社会の息吹を感じ取る。もし、戯曲を探究し、先人の経験を参考にしたいと思うなら、この戯曲の技巧的な完成度は、とくに独幕劇創作については、さらに熟読玩味する価値がある。

丁西林という劇壇のベテランは、喜劇的な視点から題材を選びとるのに長けている。題材の見極めにかけては、驚くほどの鋭敏さを備え、題材の扱いについては、自分自身の方法があっ

て、それが丁西林の喜劇の独特の風格を形成している。彼の最初の戯曲作品は、1923年に書かれた『一只馬蜂』で、そこで初めて才能の一端を示し、かなりの成功をおさめて、それに続く六篇の戯曲はすべて一幕喜劇だった。作者は喜劇の趣向に凝っていて、これらの戯曲を通じて、喜劇的な趣向を凝らす上で、さまざまな試みを行っている。そして『圧迫』という戯曲では、作者が自家菜籠中のものとしたこの種の喜劇の趣向、つまり作者特有のユーモアと、この戯曲の題材が包含する社会的な内容があいまって、この戯曲の社会的価値を他の戯曲より高からしめているのみならず、作者の喜劇創作の才能をも最高に発揮させている。そのため、この戯曲は作者の芸術的風格と芸術的成果を示す彼の代表作となっている。

作者の具える独特の風格は、いったいどのようにして形成されたのだろうか。それを知るには、その題材の取扱い方を研究し、その創作の構想の過程を探究しなければならないが、作者はあいにく自分の戯曲を解釈するのが好まず、どのようにして戯曲を構想したかを語ることはめったにない。ただ、『圧迫』という戯曲については、作者は少しばかり、ちょっとした情報を漏らしている。『圧迫』の旧版の小序がそれである。この小序は手紙の形式で書かれている。この手紙は作者のユーモアから出たでっち上げかもしれないし、本当にあったことかもしれないが、そのことについてはそれほど詮索する必要はないが、確かに我々が作者の構想過程を理解する手助けにはなる。作者によれば、彼がこの戯曲を書いたのは、死んでしまった友を偲ぶため、この友には生前に自分で部屋を借りて住みたいという望みがあったが、それは非常に難しいことだったという。「なぜなら、北京で部屋を借りるには二つの条件を満たさねばならないからだ。一つは保証人、もう一つは家族だ。」だが、その友は独身だった。当時、作者は「私はこのテーマはとても面白いと思った」が、戯曲が完成したのは、その友が不合理な生活の苦勞にさいなまれて死んだあとだった。作者は、その友の死で、この戯曲は「特別な意味を持つことになった」という。この説明からは少なくとも二つの事がわかる。一、この題材自体は本来かなり強い悲劇性を帯びている。二、作者は悲劇性を帯びた題材から喜劇に仕立てうる可能性を見出した。完成後の戯曲から見ると、この喜劇の創作は成功している。作者はなぜそのように処理したのか？喜劇に仕立てる意味はどこにあるのか？作者の答えは、こうである。彼は思った。「君が実際に部屋を探したとき、もしこの劇の主人公のように、ああいう同情心に富む人に巡り合って、君と“協力して”、—“有産階級の圧迫”のみならず—社会の一切の圧迫と輕視に抵抗してくれたなら、君はきっと死ななかつただろう。」

私はこれこそが、『圧迫』を読んだ後、笑ってすますことができなくなるだけでなく、いささか重苦しいものがあると感じ、そしてユーモアと情趣だけでなく、より厳肅なものがあると感じる原因だと思う。

そしてまさにこの原因によって、『圧迫』という戯曲は独特の喜劇の風格を備えるのである。これまでの評論家は、丁西林の芸術的特徴について、よく「含蓄」「經濟的手法」「絶妙な描写」

などのことばを用いて形容していたが、私は、以上のような構想の過程があつてはじめて、これらの語が形容するような特徴が現れるのだと思う。

私がそういった構想過程で丁西林的喜劇の独特の風格を解釈するのは、この種の現象が『圧迫』という戯曲特有のものではなく、彼の他の独幕喜劇のアプローチにもこの方法が用いられているからである。ただ、それが明白なものもあれば、それほど明白でないものもあるというだけである。『親愛的丈夫』も明白な例に属するし、『三塊錢国幣』の憎らしい呉夫人が喜劇的な主役であるのを除けば、他の戯曲の主役はすべて作者が同情を寄せる人物なのではなかろうか。作者が主としてあざ笑うのは、そういった主人公ではなく、主人公を困った立場に追い込む悪の力や悪い習慣である。このような喜劇へのアプローチは、明らかにモリエールとは異なる。モリエールは詐欺師のタルチュフなどを喜劇の主役にするのに長けている。この点では、丁西林的喜劇はチャーホフの短編に近い。

作者はこの戯曲は「幻想」にすぎないといっている。戯曲の筋立てからみれば、「幻想」二字は虚構と解釈できる。ある友の不幸な境遇に触発され、感じるころあつて、当時の北京の貸家の滑稽な状況に基づいて、戯曲の筋を虚構し、この涙を誘う喜劇に仕立てたのだ。戯曲が描く生活のリアリズム、いいかえれば作者の当時の生活に対する認識からみれば、「幻想」二字は極めて適切である。確かに、これは単なる幻想であつて、「有産階級の圧迫」は決して「ああいう同情心に富む人」によって解決されたりしない。これは作者の思想の限界である。結局のところ、これは三十年余り前の作品で、今日の作者はもはやそのようには考えていないだろう。しかし、それだからといって『圧迫』という戯曲が今日もなお芸術としての光芒を放ち、依然として味わい深いオリブであることに変わりはない。三十年余りたった今日でも、当時の作者が戯曲芸術探究において獲得した成果は、我々後輩にとって真に重んじ学ぶ価値のあるものである。

彼の精巧で完璧な戯曲の構造についていえば、明らかに非常に創意工夫がこらされたものでありながら、まったく自然で、生活そのものようであり、明らかにきわめて緻密な表現でありながら、あのように余裕があつて自由自在な筆運びである。私たちは独幕劇を構想しようとする、よく、登場人物がそのあと芝居がしやすくなるように、幕があいてすぐ状況をはっきりと説明しなければならないという難題にぶつかる。一部始終を説明していたのでは、観衆が我慢できない。特に独幕劇ではなおさらである。私は、『圧迫』では、お手伝いさんという人物を使うことで非常にうまくこの難題が解決されていると思う。お手伝いさんはその部屋をよく知る人物だが、その部屋の持ち主ではなく、彼女の身分で許される程度に、その見知らぬ借り手をもてなすしかない。彼らはああいう風に話すしかないのだが、この対話がちょうど観衆が知らなければならないことすべてをはっきりさせ、芝居のクライマックスが過ぎてからは、このお手伝いさんの人の好きが、一切の争いのもとを極めて情理に合う結末へと導くのである。

これは脇役だが、この脇役は構造上、重要な役割を果たしている。この点についても、私たちは作者の工夫をうかがい知ることができる。次に彼の鋭く的確な戯曲の台詞についてである。台詞が戯曲で果たす重要な役割について知らぬものはいないが、特に独幕劇では、それほど多方面にわたって行動で人物の性格を表す機会がないため、台詞の役割はさらに重要である。台詞は人物の性格を表すことができるだけでなく、芝居を進行させることもできる。『圧迫』の台詞はちょうどうまくこの任務を成し遂げている。さらに重要なのは、丁西林の特色ある台詞回しが、その喜劇スタイルの形成に寄与し、その登場人物に独特の風貌を具えさせていることである。

巡 査：お名前は？

男性客：（失礼な態度で）呉だ。

巡 査：（うなづいて）ああ。——お宅は？

男性客：お宅？お宅はない。

女性客：（不当な仕打ちを受けた妻のふりをはじめ）あら、家庭を捨てるとお決めになったたのね？

巡 査：（口を挟んだ人に気づき、男性客に向かって）この方の……お名前は？

男性客：（答えられず、女性客を一目見る。女性客も彼が困るのを気にしている。彼は元通り意地を張っている夫のふりをするしかなく）知らん。彼女自身に訊けばいいだろう。

登場人物たちは、何度窮状に追い込まれ、なんと豊かな心の動きを見せ、なんと魅力的な台詞をしゃべることか！

このような構造、このような台詞が戯曲を単純ながら興趣に富み、素朴ながら味わい深いものになっている。まことに我々戯曲作家を裨益するところ大である。

（初出『劇本』1957年9月号）